

東日本大震災から1年…被災地の「今」を知り、これからの支援のカタチを考える。

# 3.11を忘れない

未曾有の大震災からまもなく1年を迎えますが、被災地では住居や医療、雇用などの課題がまだ山積しています。その中で希望を絶やさず懸命に生きる人のために、わたしたちは何ができるのでしょうか。

**震** 災から1年がたち、以前に比べるとテレビなどで被災地の状況が報道されることも少なくなりました。それに比例するように、義援金やボランティアなどの支援活動に参加する人は、ピーク時の1割以下まで減少しているようです。

しかし、家族を亡くし、生活のすべてを失い、深い悲しみと不安の中で過ごしている人が、今もこの日本にたくさんいることを忘れてはいけません。被災地の復興には、まだ長い年月がかかります。これからも震災の意識を風化させず、被災者の

ニーズにあった継続的な支援を、わたしたち一人ひとりが考え、行動していくことが必要なのです。

上野小では、卒業生である香月浩一さんの紹介で、岩手県大船渡市三陸町の越喜来小への支援を開始。越喜来地区の現状などを学び、2月下旬には香月さんがデザインした旗に全校児童121人が寄せ書きして、PTAからの義援金とともに越喜来小へ送りました。香月さんは「今後も被災地への思いを忘れず、自分にできることを考えて継続的につながってほしい」と母校に願いを込めました。



香月浩一さん

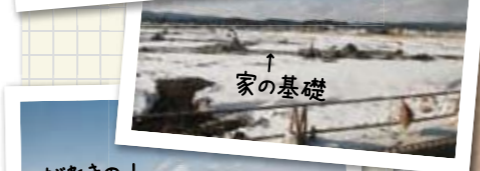
上野小出身のアートディレクター。越喜来地区に縁があり「鬼が喜んで来る」という越喜来の伝説を元に、昨年5月「okirai goblin PROJECT」を設立。昭和39年生まれ、東京都在住。

**okirai goblin PROJECT** <https://www.facebook.com/okirai>  
イベントやチャリティグッズの販売などを行い、越喜来の復興を応援しています！

## 福岡⇄岩手

- ▶ okirai goblin PROJECT
- ▶ 上野小の取り組み
- ▶ 広報担当者の現地ルポ

### 広報担当者の現地ルポ



岩手県北部の沿岸 (平成24年2月撮影)

津波の爪痕が残る沿岸部。かつての住宅街には家の基礎だけが残り、それを雪が覆い隠していました。海沿いには、行き場の無いがれきの山があちこちに点在している状況でした。(岩手・宮城のがれきの量は1人あたり4.5トン)

スポーツなどいろんなことで勇気を送るので復興めざしてせいっぱいがんばって下さい。6年長野卓希

僕も野球の夢を諦めず、精いっぱいプレーします。

越喜来小のみんなへ  
思いをのせた旗を  
掲げました！



おおきな夢をもとう  
きっと未来は明るいよ  
らんどせるに夢をつめて  
いつかは叶えられるから  
6年 安永沙佳

縦に読むと「おきらい」となるように考えました。



## 福智の風

▶ 偉業を成す人は努力を惜しまないのはもちろん、常に物事を広い視野で見渡せているような気がします。そのため柔軟な発想ができ、それまで人が考えもしなかった未開拓な部分への挑戦を可能にするのかもしれませんが、既成の考えにとられ過ぎず、時代に合わせて変革する視点を身に付けられるよう、努力したいと思います。(日吉)

▶ 最近よく耳にする「男子厨房に入らずはもう古い」。男性料理教室(P21掲載)の参加者を見て私もそう思いました。「退職後の時間を有意義に使いたい、簡単な料理ぐらいはできるように」と参加理由はさまざまですが、いずれの参加者も趣味と実益を兼ねて楽しい場になっている様子。私も始めてみようかな…と思うほどでした。(久原)

## 写真館



炭鉱の象徴「ボタ山」  
撮影者●故・戸塚 栄太郎さん  
撮影日●不明

現在の赤池支所付近に存在した大きなボタ山(廃石集積場)。赤池鉱業所の閉山後、昭和49年から「ボタ山災害防止工事」が行われ、約4年かけて次第にその姿を消していきました。

昔の写真を探しています！  
☎ 総務課広報・広聴係  
☎ 22-0555

高齡者大学・隣保館句会  
池田一步選

野遊に出掛けしひ孫の後を追ふ  
寒林の煙り音なき静寂かな  
日の差して風花の舞ふ佗住まい  
動物園獅子も春眠むさぼりて  
焼餅のむつくり向きを変へにけり  
道場に正座居並ぶ淑気かな  
初夢や亡き父母に逢ひ得たる  
孫の職決まって安堵春立つ日  
羽織着て父百歳の初春を  
天拝の風のとゞきて梅真白

久松ミサオ  
小場 妙子  
熊谷カツミ  
丸山 鈴子  
吉田 弘  
千手 弘子  
大久保幸子  
森 玲子  
小笠原雄子  
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室  
岩井鬼童選

山越えてこえて秘湯の寒一灯  
みどり児の百面相の初笑ひ  
子の羽子は空と友達夢と飛ぶ  
寒風に耳の痛さよ通夜帰り  
温泉の素に草津気分の初湯かな  
復興へ肩寄せ合ふて春を待つ  
無人駅電車待つ間の寒雀  
鐘一打一打の余韻年明くる  
夫婦とは阿吽の呼吸日脚伸ぶ  
寒波急平家亡びし潮満ち来

建部三由紀  
松岡 蔦枝  
西田 真美  
小川 雪  
長副美恵子  
迫田 昌子  
今井三千代  
仲谷ひろえ  
山本 空木  
日比生利子

方城句会  
池田一步選

室咲きの鉢の並んで介護園  
炉を囲み話尽きずに旅の宿  
この街にとけ込む暮し今朝の春  
シリウスを見遣る山里雪明り  
年忘隣人集ひ餅を搗く  
先考に倣ひ若水汲みにけり  
山峡の暗さに美しき青木の実  
着ぶくれの老を諾とし厨ごと  
蒼天を鷹の流れで吉良港

渡邊 一枝  
朝部さよ子  
尾崎 和子  
木村 誠一  
倉石嘉代子  
白石 凡子  
杉 フジエ  
長尾 冴子  
藤井耿之介

# 四季の歌

## 心映の投句

俳句・短歌教室の詠歌紹介

ともしび短歌会短歌詠草

縁起よき八角形の箸みつけ幸せ少し願ひて購ふ  
書くほどにつぎつき届く年賀状嬉しき胸に筆進みゆく  
「時」知らずメロディー流るる冬空を楽にのるごと白鷺の舞ふ  
初春を曾孫誕生とメールくる互みにスマホを手にとりにつつ  
福寿草落葉のすき間わけて咲く冬の陽射しを求めむとして  
この冬は鳥の餌にならず南天の紅き実雪にすきて艶めく  
固まりし溶岩流の石のふち湖面静かに陽にかがやきて  
歳を越し枝に残れる紅葉の葉すべて散りたり大寒の朝

桑野 昭子  
白石 信子  
村上 美幸  
福田キヨ子  
越智 早苗  
三村 和子  
前田 信子  
福田 昌